斎藤幸平『マルクス解体』とリフキン対談

年末から正月にかけて、斎藤幸平さんの『マルクス解体　プロメテウスの夢とその先』を読んだ。目の調子が悪く、時間がかかったが、多くの付箋を付けた。とりあえず目次だけでも紹介しておきたい。

第1部　マルクスの環境思想とその忘却

第 1 章　物質代謝論と環境危機

第 2 章　マルクスとエンゲルスと環境思想

第 3 章　ルカ―チの物質代謝論と人新世の一元論批判

第 2 部　人新世の生産力批判

第 4 章　一元論と自然の非同一性

第 5 章　ユートピア社会主義の再来と資本の生産力

第 3 部　脱成長コミュニズムへ

第 8 章　マルクスと脱成長コミュニズム

第 9 章　脱成長コミュニズムと富の潤沢さ

朝日新聞 7 日「気候危機と人類の今後」と題した対×談が示唆に富む。世界各地で異常気象が頻発する一方で、脱炭素は進まない。地球を壊してしまうのか、それとも技術革新で解決できるのか。脱成長を提案する斎藤幸平さんが、「知の巨人」と評されるジェレミー・リフキンさんと、人類が生きる道をリモート形式で語り合った。

斉藤　「進歩の時代」は資本主義が発展した時期と重なります。経済成長を追い求める人類が地球を変えるほどの力を持ったという意味で「人新世」という言葉もありますが、「人新世」の複合危機は「進歩の時代」の帰結であるとも言えます。私は、この危機を乗り越えるには、資本主義からの脱却が必要だと考えています。それでマルクスを研究しているのですが、実は晩年のマルクスは、非西欧社会に目を向けながら人間の活動と環境を調和させる方法を考えていて、「脱成長」の考え方に親和的になっていきます。それはレジリエンスの発想と通じあうものですが、脱成長と脱資本主義の必要性についてうどう考えていますか。

リフキン　ここは少し意見が異なるようですね。歴史的に大きな転換が起きた時には共通点がありました。（中略）そして現在、私たちは第 3 次産業革命の始まりを目にしています。高性能のスマートフォン、太陽光や風力による再生可能エネルギー、自動運転で走る電気自動車、センサーによる監視で遠隔修理も可能な上下水道のシステム、デジタル技術が駆動する新たなインフラのもと、社会は根本的に変わっていきます。「レジリエンスの時代」への移行に必要な準備はもう整っているのです。

（2024 年 1 月 11 日）